

イノベーション研究 分野横断研究の推進、新しい教育の基盤構築

研究室のナレッジマネジメント

代表者：民谷 栄一（マテリアルサイエンス研究科 客員教授）

活動内容

- 文化人類学的視点による大学研究室の個別課題発見と、研究パフォーマンス向上への基礎的研究を行う -

本研究は、実験系(バイオテクノロジー)のラボラトリーと、文化人類学とが協力しつつ、ラボラトリーの課題の発見的調査・把握を通して「研究パフォーマンス向上」につなげるための基礎研究と位置づけられる。実験系ラボラトリーと協力関係をもちつつおこなうこのような文化人類学的・社会学的研究は、日本ではこれまで皆無であることから、意義があると考え、本研究は立案されている。本研究プロジェクトではいくつかの研究課題が同時進行している。

1 試験的なデータの電子化とラボラトリーマネジメントの関係についての問い：

実験ノートの電子化によるラボラトリー内の情報の共有およびそれにつなげる諸問題を、データの電子化というテクノロジー、組織体制と組織内の資源の配置のマネジメント、および、パフォーマンスの向上との相関という角度から探るもの。

2 学習論の援用による科学的知識生産活動のプラクティスの内的な把握：

ラボラトリーという小規模組織において、いかに諸研究者（院生ら）が組織構造・実験環境を認識しつつ、研究者として自己成型していくか、新参者=院生たちの組織社会化プロセス（研究者=組織人としての身体を形作るプロセス）への問い。

3 組織論、とりわけ、社会学的な新制度派組織論のラボラトリー研究への援用：

外部環境（制度その他）の変化によって、ラボラトリーという小規模組織がその形態をカスタマイズし、順応していこうという現場の姿、また、「学と教育のロジック」と「市場（産業化）のロジック」とに引き裂かれる社会的・制度的コンテクストの中での、諸個人（諸研究者）の適応戦略などを、複数のラボラトリーの比較によって明らかにしようとするもの。

研究メンバー

高村 禪 （マテリアルサイエンス研究科 准教授）

伊藤 泰信 （知識科学研究科 准教授）

水元 明法 （知識科学研究科 博士後期課程 R A ）

清水 良純 （マテリアルサイエンス研究科 博士前期課程） 2007年9月～

虎井 総一郎 （マテリアルサイエンス研究科 博士前期課程） 2007年9月～